

卒業生代表答辞



寒さの中にも、春の訪れを感じる季節となりました。本日はこのような心温まる卒業式を挙げてくださり、誠にありがとうございます。ご臨席くださいました学長の瀬口先生をはじめ、ご多忙にもかかわらずご出席くださった皆様に、卒業生一同、心より御礼申し上げます。

振り返れば、私が武庫川女子大学に入学したのは四年前。広いキャンパスの正門に立ち、大学生活への期待でドキドキした鼓動を、つい昨日のこのように思い出します。決まった教室に自分の机があるわけでもなく、一緒に講義を聴く友人の顔ぶれも様々。高校までの生活とは一変しました。授業では、現場で活躍されていた先生方のお話しをお伺いし、教育の重要性や、教員として生きることについて考え、どんな教員になりたいのか、そのために今できることは何かを追求しました。

大学生生活後半の二年間は、新型コロナウイルスに、全ての人々が対策を強いられることになり、友人とお菓子片手におしゃべりすることも、勉強の進捗を隣で見合ったりすることもできなくなりました。残りの大学生活をどのように過ごせばよいか、不安な日々が続きましたが、教職員皆様方の不断の努力で、学業を継続することができました。

実習をはじめ、児童生徒との直接的な関わりが学びに不可欠な、教育学科の学生たちへのオンラインなどのご指導は、相当な創意工夫が必要であったことと想像します。それらは、これからも続く、新しい生活様式での教員という仕事に実践的な見本となりました。また、学外実習では、例年通りとはいきませんでした。どんな状況であっても、子どもの成長を最優先に考え、子どもの学びを止めないよう、家庭や地域と連携した教育を行うためにご尽力されている教職員の方々を拝見し、より一層、教員を志す気持ちが強くなりました。

大学での日々の勉強や学外実習、ボランティア、在学中に先生方から教えていただいたこと、そして友人と過ごす中で得られたことは、一つ残らず、私の人生における貴重な財産です。

偶然にも、同じ大学の同じ学科に進学し、同じ志を持った友人との出会いに感謝していますし、これからもこのような繋がりを大切にしていきたいと思います。

本日、武庫川女子大学を卒業する私たちは、これから社会に出る者、さらに進学して学問を極める者と、それぞれが決めた道を歩み始めます。それがどのような道でも、大学生活で得たことを糧に、常に自分を大切にしていきたいと思います。そして、私たちを支えてくださるすべての皆様への感謝の気持ちを忘れることなく、日々精進してまいります。

ご教授くださった教職員の皆様方、支え合い励まし合ってきた大切な友人、私たちを見守りあらゆる面で支え続けてくれた家族に、改めて御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

最後になりましたが、今後の武庫川女子大学の益々の御発展と、この場にいる皆様のご健康をお祈りいたしまして、卒業生代表挨拶とさせていただきます。

令和四年三月十九日

武庫川女子大学 文学部／健康・スポーツ科学部
卒業生総代 文学部教育学科
奥村 麻優